

研究テーマ	創作的な活動を 中学3年「自画像」の実践を通して
-------	-----------------------------

潮来市立潮来第二中学校 教諭

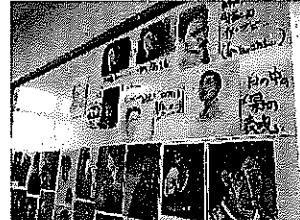
1 主な工夫改善のポイント

2年次の教科実践研究では、「視点を与える指導～導入の工夫による“わかる美術”を目指して～」というテーマで研究を行った。生徒の主体的な学びを引き出すためには、導入において生徒の興味・関心を高めるだけでなく、鑑賞や技能面での視点をしっかりと提示することにより、美術の「わからなさ」を解消することが重要ではないかと考えたためである。結果として、生徒の興味・関心を高め、学習への意欲を引き出すことに成功している実感は持つことができた。しかし、課題として、高めた興味・関心や意欲を、最後まで維持していくことの難しさが見えてきた。本校は1,2学期に行事が重なっていることもあり、前半に授業時数を確保しにくい傾向がある。5月から10時間扱いの題材を学習すると、夏休みを挟み、完成まで5ヶ月程度の期間、同じ題材を続けることになる。その間、生徒の意欲を持続させていくためには手立ての工夫が必要だと感じ、テーマを「長期間の制作活動の中で生徒の意欲を持続させるための手立て」とした。

2 具体的な手立て

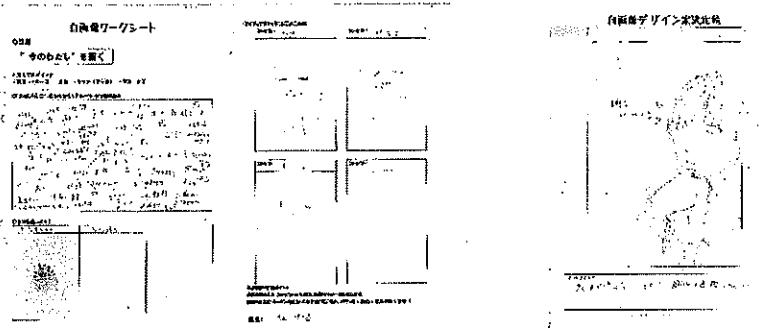
◎ 生徒同士が学び合う関係を育む環境作り

- 生徒の目を授業に向けさせるのが教師の導入の工夫ならば、生徒を授業につなぎ止めるのは生徒同士の学び合う関係性だろう。聞き合えたり、真似し合えたりする環境が、教室への安心感と主体的に学習へ取り組む姿勢を育み、共に学ぶ姿が制作にも刺激を与えるのではないだろうか。そこで、生徒同士が互いの作品を見合ったり、制作について聞き合ったりすることが気軽にでき、気になる部分があつたら自ら調べられるような環境作りを目指した。まずは発問で鑑賞や制作の視点を示し、授業での共通言語を与えることで、周りの作品を見たり、聞き合ふ際により深い学びが得られるようになる。教室環境では参考作品や参考資料を揃え、自ら調べることのできる教室環境を心掛けた。



○ 学習過程の見える化

- ワークシートを活用し、構想をいつでも振り返ることができるようになる。
- また、学習段階ごとに教師がデモンストレーションを行うことで見通しが持てるようになる。



3 授業の展開

第3学年2組 美術科 学習指導案

指導者

1 題材 自画像「15のわたし」

2 題材の目標

- 自画像を描くことに興味をもち、感性や想像力を働かせ、主体的に制作に取り組むことができる。
(関心・意欲・態度)

- 自分が表現したい「今の自分」を考え、主題を発想し、構想をまとめることができる。
(発想・構想の能力)
- 色彩や構図、タッチなどを工夫し、自分の表現意図にふさわしい表現方法を行うことができる。
(創造的な技能)
- 表現の多様性に気が付き、感性や想像力を働かせ、よさを味わうことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 教材観

絵を描くことはとても楽しいことだ。小さな子供に白い紙とクレヨンを手渡せば、延々と絵を描き続ける。しかし、だんだん客観的に物を見る目が育つてくると「なにか変だぞ」という思いが強くなっている、他人の絵と比較し始める。その結果中学生ともなると「描くのが苦手だから美術の時間が苦痛だ」「何を描いたらいいのかわからない」という声が多く聞かれるようになる。美術科の目標は学習指導要領にもある通り「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」ことであり、表現活動の楽しさや美術への親しみを持たせる事が大きな柱となっている。また、技能教科において「できた」という喜びは何物にも代えがたい学習意欲の向上の原動力になるだろう。技能面の得意不得意で美術に対して苦手意識をもたないようにする工夫や手立てが美術科の学習意欲を高めるために必要だ。

本題材は、中学校学習指導要領美術科の内容「A、表現」の「(1)感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動」として取り上げ、指導内容としては、「ア 対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情など心の世界などを基に主題を生み出すこと。」「イ 主題などを基に、全体と部分との関係などを考えて創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。」をねらいとする。自画像は自分の姿を描くことを通して、対象である自己を深く見つめる中で感じ取ったことや考えた事を基に主題を設定し、また、その主題を基に発想や構想を広げることで、中学校美術科学習指導要領の目標である「伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること」ができる題材である。

(2) 生徒の実態(アンケート調査)

平成30年7月4日 26名 実施

- | |
|--|
| ○ 自画像の制作を進める上でどこに一番力を入れて制作したいと思っていますか |
| ・形をとること(顔が似ている、人体が変じやない) 13人 |
| ・絵の具での彩色 11人 ・構図やポーズの工夫 2人 ・その他 0人 |
| ○ 自画像を描く上で、不安な所、苦手に感じる所はどこですか(3つまで回答可) |
| ・顔を似せて描くこと。 16人 |
| ・人体(手や胴体など)が変にならないように描くこと。 12人 |
| ・自分の通りに色を作ること。 9人 ・塗り方を工夫すること。 12人 |
| ・明暗を分けて色を塗ること。 13人 ・手早く塗ること 8人 |

第2学年では「友人像(人物画)」の学習でクラスメイトの姿を描いた。長期に渡る学習課題であり、人物を描くという高度な内容の学習だったためか、絵を描くことに対して苦手意識を持つてしまう生徒が増えてしまった(昨年度のアンケートから)が、その経験もあってか今回の学習では下書きを素早く描くことができる生徒が多かった。今回のアンケートでは形をとることや彩色などの技術的な部分への意識が高く、また、その部分への不安も同じように高いことがわかった。

(3) 指導観

平成28年度茨城県学校教育指導方針の各教科の努力事項の1に「個性を生かした創造的活動の充実とあり、具体化のための取り組みとして、生徒の発達の段階や興味・関心を生かした題材及び指導計画の工夫がある。今回の授業では、「今のわたしの内面まで表現しよう!」という目標の下、自分の姿を描く。その中で、自分の内面まで描くために構図やポーズ、彩色や筆遣いなどを工夫することで、発想や構想の能力や創造的な技能の習得へつなげていきたい。

4 研究テーマとの関連

美術科の学習において、主体的な学びを引き出すために重要なことは導入における動機付けと、それを持続させることであろう。動機付けは教師の題材設定や導入の工夫により、それを持続させるのは生徒同士の共同的な学びではないだろうか。今回の学習では題材の目標を自分自身の内面に設定したことで、表面上の似ている、似ていないにとらわれない表現ができ、工夫の余地が生まれることで生徒の主体的な学びが引き出せたのではないだろうか。

また、自画像というと、自分自身との対話、内面的な探求ばかりに目が行きがちであるが、描かれている対象がすぐ側にあるということ、よく知っている存在であるということは、鑑賞する他者にとっても語りやすい題材でもあるだろう。制作を進めていく中で「似ている・似てない」という表面上の要素だけでなく「この色は○○さんらしい」「その塗り方は○○らしさが出ているね」など色彩や筆遣いの技術を主題に関連させた会話が生まれるのではないかだろうか。導入部分で鑑賞の視点を提示することで、生徒の発見や気づきにつながる学びの場を作っていく。

5 指導と評価の計画(10時間扱い)

時	学習活動・内容	開	発	技	鑑	観点別評価規準
1	オリエンテーション アイディア出し	○				・自画像を描くことに興味をもち、感性や想像力を働かせ、主体的に制作に取り組むことができる。
2	デザイン案の決定	○				・自分が表現したい「今の自分」を考え、主題を発想し、構想をまとめることができる
3	写真撮影	○				

4,5	下書き			○	・色彩や構図、タッチなどを工夫し、自分の表現意図にふさわしい表現方法を行うことができる。
6,7,8,9	彩色（本時）			○	
10	鑑賞会			○	・表現の多様性に気が付き、感性や想像力を働かせ、よさを味わうことができる

6 本時の学習

(1) 目標

色彩や構図、タッチなどを工夫し、自分の表現意図にふさわしい表現方法を行うことができる。
(創造的な技能)

(2) 準備・資料

・参考作品 　・試し塗りの紙

(3) 展開

学習活動・内容	形態	指導上の留意点及び評価
1 題材の目標を確認する。 今のがわたしの内面まで表現しよう！ (1) 題材の目標を再確認する。 (2) 前時までの学習内容を再確認する。	全	◎活動の初めに、参考作品を提示しながら前時までの学習内容や題材の目標を再確認し、制作や鑑賞の視点になる部分を提示していくことで、生徒の関心を高めるとともに制作過程の具体的なイメージや、友人と作品について語る言葉をもつこができるようにする。 *色彩、構図、筆遣い（タッチ）など
2 作品制作 (1) 自分なりの本時の目標を学習カードに記入する。 (2) 自画像の彩色を行う。	個	・机間指導を行い、ワークシートを活用しながら制作が進められるように個別に支援する。 ・混色や彩色の方法などで困っている生徒には試し塗りの用紙を使うように促す。また、技術面でのつまずきには実際にデモンストレーションを見せてることで生徒にイメージをもたせる。
3 本時のまとめをする。 (1) 本時の振り返りと自己評価 学習カードに本時のまとめと自己評価を書く。 (2) 次時の説明を行う。	個全	・机間指導を行う中で生徒のつまずきや悩みを見取り、それを別の生徒と繋げることで学び合いがなされるように支援していく。 ◎色彩や構図、タッチなどを工夫し、自分の表現意図にふさわしい表現方法を行うことができる。（作品、観察）

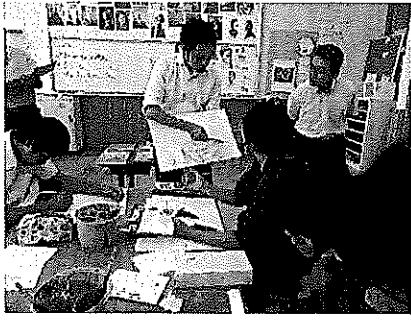
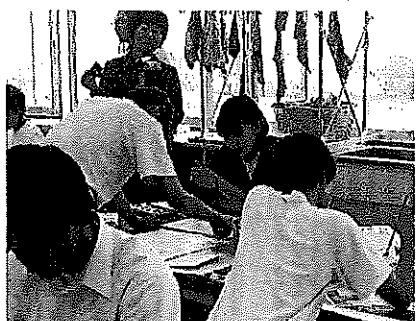
◎研究テーマに迫るための手立て

4 授業の実際

本時の学習は自画像制作の彩色の段階に入つてから2回目の授業である。7月に行われた校内授業研修会の焦点授業として行った。本校の研究テーマは「生徒の主体的な学びを引き出す学習指導の在り方」であり、生徒同士の学び合いを主軸とした主体的な学びを引き出すための工夫が主眼である。3年次研修のテーマとした「長期間の制作活動の中で生徒の意欲を持続させるための手立て」では、生徒同士の繋がりと、そこから生まれる主体的な学びを主な手立てとしており、本時の学習では生徒同士の学び合う姿が育まれるような学習環境作りや発問の工夫、そして以前から個人研究のテーマとしてきた導入の工夫を取り上げた。

実際の授業風景では、ねらい通り、生徒同士が作品をもとに技法や彩色について話し合う姿や、友人の制作場面をじっと見つめて研究するような姿が多く見られ、集中して学習することができ

ていた。また、2学期に入ってから行った続きの授業でもスムーズに学習に入ることができ、生徒の意欲も上手く維持することができた。さらに、仕上げの段階になると参考作品を自主的に借りに来て、手元に置きながら制作を進める生徒もあり、積極的に学習に関わろうという姿があった。



5 成果

生徒同士の繋がりを軸に主体的な学びを引き出そうという試みには、大いに手応えを感じることができている。しかし、これは今年度の研究テーマに基づいた授業改善の結果というだけでなく、2年半、生徒と係わり培ってきた教材研究の積み重ね、そして何よりも学校全体で取り組み、他教科の授業や学級活動等でも日常的に行われている共同的な学びの成果でもある。今後も研究を重ね、生徒が主体的に美術と関わる授業を目指していきたい。

6 課題

今後の課題として研究していきたいのは作品の質である。1年生からの学習の積み重ねにより、デッサンはある程度短時間でも取れるようになり、構図の工夫も考えられるようになったが、絵の具の扱いについては不慣れさが目立ち、時間の制約もあり、思うように手数を増やせないでいる生徒が多くかった。背景も似通ったものが多くなってしまい、自由な発想を引き出せない教師側の準備不足が露呈した。生徒自身に『良い作品が描けた！』という満足感を味わわせるためにも、自然と、そして効率よく生徒に創造的な技能を身に付けさせる工夫をさらに研究していきたい。

